

作成日 1995年 7月11日  
改訂日 2022年 5月16日

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 ゴールド S  
供給者の会社名称 ペンギンワックス株式会社  
住所 〒537-0021 大阪市東成区東中本3-10-14  
担当部門 研究開発部  
電話番号 06-6973-9130  
FAX番号 06-6976-1456  
推奨用途及び使用上の制限 自動車塗装面（ソリッドカラー、淡色・濃色車兼用）の  
汚れ落とし・艶出し・保護  
整理番号 22-J-1107-08

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	皮膚腐食性／刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分2（呼吸器） 区分3（麻酔作用、 気道刺激性）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分2（呼吸器、肝臓、精巣）
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分1
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分1

上に記載のないもので、物理化学的危険性については「区分に該当しない」で、  
有害性については「分類できない」である。

### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
引火性液体及び蒸気  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
臓器（呼吸器）の障害のおそれ  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（呼吸器、肝臓、  
精巣）の障害のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
胸気又はめまいのおそれ  
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き  
安全対策

- ・熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・容器を接地しアースをとること。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
- ・火花を発生させない工具を使用すること。
- ・静電気放電に対する措置を講ずること。
- ・屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱い後は手をよく洗うこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を大量の水で洗うこと。
- ・皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当てを受けること。
- ・火災の場合：消火するために粉末、泡又は炭酸ガス消火器を使用すること。
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当てを受けること。
- ・気分が悪いときは、医師の診察、手当てを受けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- ・漏出物を回収すること。
- ・換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。容器を密閉しておくこと。
- ・施錠して保管すること。
- ・内容物や容器を廃棄するときは、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

応急措置

保管

廃棄

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

成分名	含有量(wt%)	労安法 通知対象物	PRTR 法	CAS No.
ミネラルスピリット	40~50	551号	非該当	非公開
ホルリン	1.1	604号	第1種455号	110-91-8
シカ	非公開	非該当	非該当	非公開
脂肪酸	非公開	非該当	非該当	非公開
シリコン	非公開	非該当	非該当	非公開
非イオン系界面活性剤	非公開	非該当	非該当	非公開
水	非公開	非該当	非該当	7732-18-5

シックハウス・シックスクール配慮

シックハウスの原因としてあげられている厚生労働省指針値該当成分（シックスクールの原因物質を含む）については、これらを原料として使用していません。

環境ホルモン対応

環境省「内分泌攪乱作用を有すると疑われる物質」を使用していません。

#### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 蒸気、ガス等を吸い込んだ場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。  
粉塵を吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移動し、水でうがいをし、鼻をかみ粉塵を排出する。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。水及び石鹸又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。  
外観に変化が見られたり、痛みがある場合には、医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに水で口をすすぎ、コップ1～2杯の水を飲ませ無理に吐かせず、速やかに医師の診断を受ける。被災者の意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

#### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 霧状の強化液、粉末、炭酸ガスおよび泡消火剤。  
(初期火災には粉末および炭酸ガス、大規模火災には泡消火剤が有効。)
- 使ってはならない消火剤 : 注水は、火災を拡大し危険な場合がある。
- 特有の消火方法 : 周囲の設備などに散水して冷却する。  
消火作業の際には、風上から行き必ず保護具を着用する。  
皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。  
消火作業を行う者は、空気呼吸器などの保護具を着用し、酸素欠乏及び有毒ガスから身をまもること。  
火災発生場所の周囲に関係者以外の立ち入りを禁止する。

#### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置 : 関係者以外の立ち入りを禁止し、作業者は適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。  
床に流出した場合は滑りやすくなるので注意する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないよう注意する。
- 封じ込め及び  
浄化の方法及び機材 : 少量の場合は、吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）に吸着させて、密閉できる空容器に回収する。大量の場合は、土砂等で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから空容器に回収する。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

##### 取扱い

##### 技術的対策

(局所排気・全体換気等)

- ・換気のよい場所で取扱う。
- ・発散した粉塵を吸い込まないようにする。
- ・炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発生させない。
- ・静電気対策のため装置などは接地し、電気機器類は防爆型を使用する。
- ・液が眼、皮膚、衣服などに付かないよう注意する。
- ・取扱いの都度、容器を密閉する。
- ・取扱い場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な取扱いをしない。

安全取扱注意事項  
 接触回避  
 衛生対策

情報なし  
 情報なし  
 ・適切な保護具（手袋、マスク、保護眼鏡等）を着用する。  
 ・一度、容器から出した液は元の容器へ戻さない。  
 ・取扱い後は、手・顔などを良く洗い、休憩所などに手袋等の使用済みの保護具を持ち込まない。

保管  
 安全な保管条件

・直射日光を避け、換気の良い冷暗所かつ凍結しない所で保管する。  
 ・保管場所の電気器具は防爆構造のものを使用する。  
 ・容器を密閉し、施錠できる場所で接地して保管すること。  
 ・容器は破損、腐食、割れのないものを使用する。

安全な容器包装材料

## 8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等  
 許容濃度 : ミネラルスピリット TLV-TWA 100ppm、モルホリン TLV-TWA 20ppm  
 ACGIH (2006年度版)

設備対策 : 屋内作業所は、防爆タイプの排気装置を設置する。  
 取扱い箇所の近辺に洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。  
 取扱場所の近くに高温、発火源となるものが置かれなようにする。  
 密閉場所で作業をする場合には、換気装置や集塵装置を取り付ける。

保護具  
 呼吸用保護具 : 保護マスクを着用する。  
 手の保護具 : 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。  
 眼の保護具 : 保護眼鏡を着用する。  
 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業着、保護服などを着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体  
 色 : クリーム色  
 臭い : 有機溶剤臭  
 沸点又は初留点及び沸騰範囲 : データなし  
 可燃性 : 可燃性  
 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 : 下限 0.6vol%、上限 8.0vol% (ミネラルスピリット)  
 引火点 : 54°C (タグ密閉式) (参考値)  
 自然発火点 : 230~240°C (ミネラルスピリット)  
 分解温度 : データなし  
 pH : 8.8  
 動粘性率 : 220 mm<sup>2</sup>/s  
 溶解度 : 水に混和する  
 蒸気圧 : データなし  
 相対密度 : 0.93  
 相対ガス密度 : データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性 : 情報なし  
 化学的安定性 : 通常的环境下では安定  
 危険有害反応可能性 : 情報なし  
 避けるべき条件 : 高温、火花、裸火と接触しないよう注意する。  
 直射日光のあたる場所、0°C以下の低温（凍結）および  
 40°C以上の高温環境

混触危険物質 : 情報なし  
 危険有害な分解生成物 : 情報なし

## 1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）	: 混合物判定理論経口 LD50 推定値 ATEmix が 2000mg/kg を超えるため、区分に該当しない。
急性毒性（経皮）	: データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入）	: データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	: 区分1の成分を1%以上5%未満含むため、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 区分1の成分を1%以上3%未満含むため、区分2とした。
呼吸器感作性	: データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	: データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない。
発がん性	: データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 区分1の成分を1%以上10%未満含み、区分3の成分を20%以上含むため、それぞれ区分2と区分3とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: 区分1の成分を1%以上10%未満含み、区分2の成分を10%以上含むため、両者とも区分2とした。
誤えん有害性	: データ不足のため分類できない。

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	: (区分1×毒性乗率) が25%以上になるため区分1とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	: (区分1×毒性乗率) が25%以上になるため区分1とした。
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データ不足のため分類できない。

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本液を廃棄する場合は、内容を明示した上で免許を持った産業廃棄物処理業者に処理を委託する。</li> <li>・公共水域（河川、湖沼など）への排出は絶対に避ける。</li> </ul>
汚染容器・包装	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後、免許を持った産業廃棄物処理業者に処理を委託する。</li> </ul>

## 1 4. 輸送上の注意

### 国際規制

国連番号	: 1993
品名（国連輸送名）	: その他の引火性液体（他の危険性を有しないもの）
国連分類	: クラス 3
容器等級	: III

### 国内規制

陸上輸送	: 消防法 危険物第4類第2石油類 水溶性 危険等級III
海上輸送	: 船舶安全法 危険物（引火性液体類）
航空輸送	: 航空法 危険物（引火性液体）

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

引火性液体なので「火気厳禁」。

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。輸送作業は取扱い及び保管上の注意事項を留意して行う。

## 15. 適用法令

労安法／有機溶剤中毒予防規則	: 第三種有機溶剤等
／通知対象物	: ミネラルスピリット (551号)、モトルソ (604号)
消防法	: 危険物第4類第2石油類 水溶性 危険等級Ⅲ 指定数量 2000L
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
船舶安全法	: 引火性液体類 (危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	: 引火性液体 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
P R T R法／第一種指定化学物質	: モトルソ (455号)
第二種指定化学物質	: 該当しない

## 16. その他の情報

### 参考文献

- ・ GHSに基づく化学品の分類方法 JIS Z 7252 : 2019
- ・ GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) JIS Z 7253 : 2019
- ・ GHS分類結果データベース 独立行政法人 製品評価技術基盤機構

本資料は、信頼し得ると考えられる資料並びに測定結果などに基づき一般的な取扱いを前提に作成したものです。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を、お取り下さるようお願い致します。